2012年4月1日より、ヘモグロビンA1cの値は国際標準化され、NGSP値が採用されます。

以前より、「さかえ」誌面でもお知らせしておりましたように、2012年4月1日より、日常診療においても、ヘモグロビンA1cの表示に、国際的に広く使われているNGSP値（National Glycohemoglobin Standardization Program: 国際標準値）が用いられます。最終的には、このNGSP値だけの表示になる予定ですが、しばらくは、これまでのJDS値（Japan Diabetes Society:日本糖尿病学会値）と併記します。

ヘモグロビンA1c（NGSP）値とヘモグロビンA1c（JDS）値の関係は、以下のようになります。

5.0%未満では、	ヘモグロビンA1c（NGSP）値＝JDS値＋0.3%
5.0%～10%の間では、	ヘモグロビンA1c（NGSP）値＝JDS値＋0.4%
10%以上では、	ヘモグロビンA1c（NGSP）値＝JDS値＋0.5%

例えば、これまでヘモグロビンA1c6%としていたものは、**ヘモグロビンA1c（NGSP）6.4%となり、**ヘモグロビンA1c（JDS）6.0%と併記します。

〈最も重要な注意点〉

測定値がNGSP値で測定され、記載されますので、これまでの診断基準、治療評価基準値は、すべてNGSP値に変更された値を使用してください。もちろん、併記されたヘモグロビンA1c（JDS）値にて評価する場合には、これまで用いた基準値をお使いください。

なお、特定健診や保健指導では、混乱を防ぐため、2013年3月31日までは、引き続きヘモグロビンA1c（JDS）値のみを用います。

日本糖尿病学会　糖尿病関連検査の標準化に関する委員会
委員長　柏木厚典（かしわぎ あつのり）